

加藤会計通信

あけましておめでとうございます。

お正月休みは、どこにも行かずに家で過ごしました。何もやることがなかったので、テレビで「鬼滅の刃」を見ました。

相乗効果

相乗効果という言葉が辞書で調べてみました。

「相乗」とは、二個以上の数をかけ合わせる事。「相乗効果」とは、二つ以上の要因が同時に働いて、個々の要因がもたらす以上の効果を出すことです。

例えば、10ヶ所に工場を持つ会社があったとします。それぞれの工場で改善活動を行い、個々の工場の一つずつ改善ができたとき、会社全体で合計10個(1×10=10)の改善ができたこととなります。しかし、それぞれの工場がとてもよく連携がとれていて、個々の工場の改善をそれぞれの工場に教え合った場合、会社全体で合計100個(10×10=100)の改善ができたこととなります。

相乗効果の反対語は、「相殺」です。辞書によると、相殺とは物事の相反する要素や競合する要素が、互いに差し引きされることです。

先程の会社でいうと、個々の工場が互いに憎しみ合っていて、邪魔ばかりしている場合には、お互いの改善を相殺して、10どころかマイナスの効果を及ぼすこととなります。

相乗効果を起こすことができなければ、会社の意味がありません。なぜなら、社員それぞれが独立して一人で仕事をした方が良いからです。私は相乗効果こそが、会社が存在する理由なのだと思います。弊社では、年の言葉を決めて、だるまの背中に書くのですが、今年は「相乗効果」としました。

「相乗」という言葉は、別の読み方をすれば「あいり」です。縁あって、一つの会社に乗り合わせたのですから、お互いに相殺するのではなく、相乗効果を起こしたいものです。

令和3年1月4日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

今年も確定申告の期限が延長されました（4月15日）。とはいえ、できるだけ早期の資料の準備に、ご協力くださいませ…m(_ _)m。

無形の力

決算書には、お金で測ることのできるものしか載っていません。

言うまでもなく、社員は会社にとって最も大切な財産ですが、貸借対照表の資産の部に人材という勘定科目はありません。また、会社の持つ特殊な技術やノウハウも重要な財産ですが、これも決算書に載っていません。さらに、取引先・地域社会との信頼関係、会社のブランドは重要な財産ですが、これも決算書には見当たりません。

これら目に見えない資産のことを、無形資産と言います。無形資産が決算書に載らない理由は、お金の尺度で測ることができないからです。会計学者は、これらの資産が重要であることは理解しているのですが、客観的に測定できないことから、会計上、「無いもの」としているのです。

よく考えてみると、本当に大切なものは、お金の尺度で測ることが難しいように思います。社員のやる気、仕事へのプライド、団結力、創意工夫などなど、とても大事なことですが、お金で測ることはできません。これは大きな反省なのですが、会計を生業とする我々は、あまりにもお金にこだわるあまり、目に見えない資産の重要性を見落としているように思います。

もちろん、お金は大事です。お金が足らなくなれば会社は倒産してしまいますから。しかし、これら無形の資産は簡単にお金で買うことはできません。日々の努力で積み上げていくものです。そして、とても壊れやすいものです。

そういえば、星の王子さま(サン・テグジュペリの小説)のキツネが言っておりました。「とても簡単なことさ。それはね、ものごとはハートで見なくちゃいけない、っていうことなんだ。大切なものは、目では見えないからね。」

令和3年2月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

事業再構築補助金について

コロナ禍によって、これから世の中がどのように変わっていくのか、様々な意見があります。大勢で集まることが難しくなる。海外への移動が高価なものになる。ITを使ったコミュニケーションがあたりまえになる。短期的にみれば、その通りだと思いますが、10年後を考えたときには、どうでしょうか。皆で集まって、食事をしたり、歌ったり、旅行をすることの楽しさを考えれば、また、すっかりもとに戻るような気がします。

もとに戻るとしても、会社を持続させていくためには、10年も悠長に待つてはいられません。環境が変われば、自分も変わっていくのが会社の宿命なのだと思います。

国としても、コロナ禍という経済社会の変化に対応して、中小企業の皆さんに思い切って事業を再構築してもらおうと、施策をすすめています。予算額として、令和2年度第3次補正予算で1兆1485億円が計上されており、今までにない大規模なものとなっております。

詳しくは、添付のパンフレットを見ていただきたいのですが、コロナ禍によって、一定割合の売上が減少している会社を対象となります。事業を再構築して、付加価値を増やしていくための事業計画を策定し、審査を受ける必要があります(不採択の可能性もあります)。

なお、事業計画は、認定経営革新等支援機関と策定することが求められております。加藤会計事務所は、認定経営革新等支援機関に登録しておりますので、お手伝いさせていただきます。この3月から公募が始まります。公募は1回だけでなく、今年度中に複数回実施する見込みです。

コロナ禍の自粛生活のなかで、これからどのようにやっていこうか、日々悶々と考えていらっしゃると思います(もちろん、私もそうです)。その考えをとりあえず文書に落とし込むことから始めてみたら良いのでは、と思っております。

令和3年3月2日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

今年もさくらがきれいに咲きました。事務所の前のさくらの花びらが、玄関まで入ってきます。

社風について

今年度、新入社員の採用をしてみようと思い、何回か面接をしました。応募して下さる方は、会計事務所の経験者の方が多いのですが、話を聞いてみると、同じ会計事務所なのに、価値観や仕事のやり方がずいぶん違うものだな、と考えさせられます。

この違いはどこからくるのでしょうか。

長い時間をかけて培った社風と言ってしまうえばそれまでですが、私は社長の性格が最も大きな要因であるように思っております。

いろいろな会社に訪問し、いろいろな社長にお会いする機会がありますが、従業員の方々の言動は、社長に似ているような気がしております。

会社に訪問したとき、受付の方が気持ちの良い挨拶をする会社は、社長ご自身も、気持ちの良い挨拶をしてくれます。受付の方が横柄な会社は、社長ご自身も横柄なような気がします（失礼な書き方で申し訳ありません。自戒の念を込めて書いております）。

これは外から見て感じることなので、社長ご自身では、多分わからないと思います。私自身も、加藤会計事務所についてはよくわかりません。

「世の中に良い会社、悪い会社なんてない。あるのは、良い社長と悪い社長だけだ」という言葉がありますが、そのとおりなのだと思います。これはとても恐ろしいことですが、逆手にとれば良いことだと思います。なぜなら、社風を明るくしたいと思えば、自分が明るく振る舞えばよいからです。

社長の一挙手一投足が社風をつくります。社長業をやっているとストレスが溜まることが多いですが、カラ元気も元気のうち、今日も明るく元気に過ごしたいと思っております。

令和3年4月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

気持ちの良い新緑の季節になりました。ストレスが溜まる昨今、散歩が気晴らしになっております。

ゴルフについて

コロナ禍のなか、ゴルフ場が繁盛しているようです。大自然のなか、少人数でプレイすることから、様々な制限があるなかでも比較的行きやすいのだと思います。松山英樹の偉業も手伝っているのかもしれませんが。

ここに書くのも恥ずかしいくらいなのですが、私も少しだけゴルフをやります。当初はゴルフの印象はあまり良いものではありませんでした。子供のころ、休日の昼間に父がゴルフのテレビ中継をぼんやり見ていたのを思い出しますが、あんな退屈なスポーツを、なんで一生懸命やるのか全く理解できませんでした。そんな私ですが、最近、ゴルフの面白さが少しだけ分かったような気がしております。

私のような真面目に練習をしないゴルファーの場合、思ったとおりのショットができることはほとんどありません。大抵の場合ひどい目にあうのですが、極たまに、信じられないようなナイスショットができてしまうことがあります（これが最高に気持ち良いのです！）。冷静に考えれば唯の偶然なのですが、なぜか、またできるかもしれないと期待して、またゴルフをしたくなるのです。

ゴルフは、玉を棒で打って、穴に入れるだけのスポーツですから、他人は関係なく、すべては自分一人の技術の問題です。でもなぜか、怒りのやり場に困り、自分のミスを誰かの責任にしたいくなります。怒ってもしょうがないのに風のせいにしたり、ゴルフ場の芝の手入れのせいにしたり、道具の責任にしてゴルフクラブを買い換えることもあります。でも心のどこかでは、自分が下手なだけ、ということは分かっているのです。

ゴルフは自分の心の弱さがよくわかるスポーツです。そして、一緒に回っている仲間と、それを笑い飛ばせるところが良いところだと思っております。

令和3年5月7日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

四十肩になりました。はなしでは聞いておりましたが、本当になるものなので
すね。

思い出について

先日部屋の整理をしていたら、長い間放っておいたダンボールの中から、昔の
写真がたくさん出てきました。一枚一枚めくっていると、長い間忘れていたこ
とが、一枚一枚の写真と一緒に頭の中に帰ってきました。

楽しかったこともあれば、辛かったこともあり、大事にしたい思い出もあれば、
できれば忘れていたかった思い出もあります。

大量の写真を整理しようと決心し、写真を厳選することにしました。

まず学生時代に流行したプリクラで調子によって撮った写真などは、恥ずかし
くて見てもらえないので、すぐに捨てることにしました。なんでこんなものを
大事にとっておいたのか、今ではよくわからないものがたくさんあります。当
時の自分に聞いてみたいものです。

昔の自分と今の自分では、判断の基準が変わっているようです。

私の学生時代の写真は、全て紙です。破り捨てることができます。今はスマホ
で撮って、データで保存するようになりました。調子に乗って SNS にアップし
た写真は、場合によっては世間に広まって消去することができなくなります。

写真のない時代の人たちは、昔のことを思い出すために、絵や文字で記録を残
しました。残しておかなくては、と強く思ったことだけ、手間をかけて記録し
たはずですが。今では写真も動画も手軽に記録が残せるようになりました。この
膨大なデータは、将来どんな使われ方をするのでしょうか。

もし、私の学生時代にスマホと SNS があったら、今、どんなふうに過去を振り
返るのでしょうか。あのプリクラが消せないのであれば、ちょっと辛いかもしれ
ません。

令和3年6月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

私の家にも、コロナワクチン接種券が届きました。

M&A について

最近、M&A の仲介業者から頻繁に電話がかかってきます。必死に案件を探しているようです。ここ数年、私の周りでも会社の売り買いの話が増えて来ました。理由は様々ですが、人手不足が原因の場合が多いように感じております。

国も、廃業の防止、会社規模の拡大、創業推進の観点から、中小企業の M&A を推進しています。

事業承継・引き継ぎ支援センター（群馬県では、群馬県産業支援機構に設置されています）による M&A の支援や、令和 3 年度税制改正では、M&A により株式を購入した場合に、一定の要件のもと、取得価額の 7 割を損金にできる制度が創設されました。

私は、会社を売り買いすることに、少し抵抗があります。確かに、会社は法律上、所有できる「モノ」ですから、売ったり買ったりできることは解っているのですが、なにか心のなかで引っ掛かりがあります。

おそらく、会社というのは、家族のような「ヒト」の集まりであり、売り買いできる「モノ」ではないという感覚があるからでしょう。

ましてや、親から引き継いだ会社の場合には、あの世から怒られるような、後ろめたい気持ちがあるように思います。

とはいえ、世の中の会社に対する考え方が変わってきているのも事実です。新卒で入社して、定年を迎えるまで勤め上げる、という感覚は、今の若者には無いように感じます。

会社は、家族のようなものから、機能的なものに変わりつつあります。これにともなって、世の中の M&A に対する考え方も変わってくるでしょう。そのうち、不動産を売買するように、会社を売買する時代が来るかもしれません。

令和 3 年 7 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

Gメッセでモデルナワクチン(一回目)を打ってきました。腕が少し痛くなりましたが、いたって元気です。

名伯楽について

若者の数が減り続けていますが、若者にとっては良いことでもあるように思います。なぜなら彼らにとっては選択肢が増えるからです。定員が変わらないのであれば、東大に合格する可能性が上がり、三菱商事に入社できる可能性が高まるからです。

一方で、中小企業は大変です。人気のある会社から採用枠が埋まっていくからです。東京の上場企業から地方の上場企業へ、その後、中堅企業の採用枠が埋まっていく。普通の中小企業にとっては、残りわずかのパイを奪い合う、とても厳しい状況にあると言えます。

言い方は良くないですが、ぴかぴかの優秀な人材が普通の中小企業にやってくる可能性は限りなく低い(これからもっと低くなる)と思います。

かつて中国に、伯楽という名馬を見分ける名人がおり、彼は馬の群れを見ると、たちどころに一日に百里を走る馬を見分けられたそうです。評判を聞いた人々は、馬の見分け方の教えを乞うのですが、伯楽は自分の嫌いな相手には名馬の見分け方を教え、好きな相手には駄馬の見分け方を教えたと言います。

なぜ、好きな人に駄馬の見分け方を教えたのでしょうか。それは、世の中に滅多にいない名馬よりも、そこら辺にいる駄馬を見分ける力の方が役に立つからです。すぐに疲れるけれどもスピードだけはある馬や、食べ過ぎるけれども力だけはある馬など、欠点はあるけれども長所のある馬を見抜いて、適材適所に活かす力が実際には役に立ったのです。

私たちのような普通の中小企業は、人材紹介会社に高い手数料を払って、ぴかぴかの人材を待ち望むよりも、そこら辺にいる普通の人の長所を見抜き、磨いて、活かす力が必要なのではないかと、日々考えております。

令和3年8月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

先日、Gメッセで二回目のモデルナワクチンを打ちました。少し熱が出ましたが、有難いことに大きな副反応はありませんでした。

良い会社と悪い会社

お客様とお話していて、最もよく受ける質問は、「どんな業界が儲かっているのか？」です。自分が知る範囲でお答えするようにしておりますが、この質問に対する最近の私の答えは、「わかりません。同じ業界でも、儲かっている会社とそうでもない会社に分かれているように思う」です。

先日私がこのような回答をしたら、「それでは、なぜ同じ業界なのに儲かっている会社とそうでもない会社に分かれるのか？それを分析するのがあなたの仕事でしょう！」と叱咤激励して頂いたので、私なりの分析を書いてみたいと思います。経営者としての実績もない半人前の考えですが、人よりも多くの会社の実情を知る立場にあるので、参考になるかもしれません。

「良い会社と悪い会社の差は、やるべきことを実行できるかどうかにある」と思います。なんだ、当たり前じゃないか、と怒られそうですが、もう少しお聞きくださいませ。

経営者が優秀かどうかは、あまり重要ではないと思います。「今、会社が何をすべきか」については、必ず会社にいる誰かが分っているからです。それは、社長である場合もあれば、長年会社に勤める重役の場合、さらには現場の平社員の場合もあります。

しかし、役員同士の確執、夫婦や親子の不仲など、なんらかの人と人とのわだかまりが、やるべきことを実行するのを妨げているように思うのです。

何も意識せずとも、毎日、やるべきことを積み上げることのできる会社と、わかっているけど実行できない会社とでは、どんどん差が開いていきます。わだかまりなく、言うべきことを言える、それを受け入れることができる文化こそが、良い会社の条件だと思っております。

令和3年9月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

新しい自民党総裁が決まりました。新総裁の「新しい資本主義」を構築する、という言葉が良いな、と思っております。

改正電子帳簿保存法とインボイス制度

電子帳簿保存法が改正されました。令和4年1月1日から施行されます。そもそも、帳簿書類は原則として紙によって保存することが義務付けられています。しかし、電子帳簿保存法の一定の要件を満たすことで、紙ではなく電子データによる保存が例外的に認められています。

今回の改正は、電子保存の要件を大きく緩和することで、電子データによる帳簿書類の保存をととてもやりやすくしています。

一方、メールで PDF の請求書が送られてくる場合等、もともと電子データで取引している場合には、プリントアウトした紙での保存を認めず、電子データのままの保存を求めています。

インボイス(適格請求書)制度が、令和5年10月1日から始まる予定です。これに先立ち、令和3年10月1日(本日)からインボイス発行事業者の登録申請の受付が開始されます。

インボイス制度とは、登録事業者が発行する適格請求書(インボイス)を保存することが、仕入税額控除の要件となる制度です。つまり、適格請求書(インボイス)を発行できない未登録事業者から何かを仕入れた場合には、消費税の納税額が多くなってしまうことになります。

ですので、ほとんどの事業者がインボイス発行事業者の登録をするものと考えられます。ただし、売上高が一千万円以下の免税事業者の方は、登録することで、自動的に消費税の納税義務者となりますので、検討が必要です。

インボイス制度が導入されると、膨大な量の適格請求書(インボイス)にもとづいて会計処理を行い、これを保存することが求められます。先ほどの電子帳簿保存法の改正と相まって、電子インボイスが普及して、会計処理の自動化が進むのではないかと思います。

令和3年10月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

選挙が終わりました。低い投票率が気になります。

100回目

今回で、100回目の加藤会計通信となります。

2013年8月から始めて、ようやくここまでたどり着きました。始めるきっかけは、お客様への情報提供だったのですが、いつの間にか、私の独り言みたいになってしまいました。それでも、お会いした時に頂く、ご感想やお叱りの言葉がとても勉強になっております。

学生時代は作文が大の苦手で、いつまでたっても原稿用紙を埋めることができませんでした。ようやく苦手意識を克服したのは、公認会計士試験でした。試験では、時間内に論文を書き上げることが求められるため、あまり深く考えずに、標準的な文章の型を体で覚えました。これが良かったのかもしれません。

それでも、文章を書くことはそれほど得意ではありません。文章は会話と違い、形として残るため、緊張感があります。読んでくださる方がどのように感じるのか想像していると、キーボードを押す指が止まります。

加藤会計通信を書くにあたって、心がけていることは、「ウソをつかない」ということです。自分を大きく見せようとして、どこかで借りてきたような格好の良い言葉をできるだけ使わずに、自分の言葉で書こうと努めております。自分の言葉を積み上げることで、初めて自分の考えが整理できるのではないかと考えております。

これからも、この通信を続けていきたいと考えております。また、加藤会計事務所には個性あふれる社員がおりますので、彼ら彼女らにも何か書いてもらおうかと考えております。

令和3年11月2日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

人生いろいろ

うつむきの話で恐縮です。最近葬儀に出席する機会が多くなりました。いろいろな葬儀に出会いました。会葬者千人もの葬儀、中ぐらいの葬儀、そして貧寒とした葬儀、中でも、やはり温かみのある涙のある別れは、故人もよい処に行けるような気がするものです。出棺直前の棺への花入れは見送りのクライマックスでしょう。

少し気になるテレビ番組がありました。孤独死をテーマにしたNHKの特集でした。一人暮らし、訪う者もない、葬儀もない荒廃した有様を映していました。それを孤独死と名付けていました。

けれども私はその、いかにも不幸そうな孤独死という言葉が好きではありません。外観だけで幸不幸を評価することはしたくありません。好きな詩人で宮沢賢治の詩があります。「眼にて云う」という詩です。『だめでしょう、とまりませんな、ゆうべから眠らず、がぶがぶ血も出続けなもんですからな、-中略-、あなたのほうから見たらずいぶん惨憺たる景色でしょうが、わたくしから見えるのはやっぱり、きれいな青空とすきとおった風ばかりです』・・ひとり逝く人がこの詩のように、きれいな青空とすきとおった風と共にあることを願います。将来を思う時、この報道に似た人が増えるような不安があります。他人事ではないような気がします。

人生いろいろ、となるでしょう。

最近叔母が亡くなりまして、お葬式に参列し斎場での、お骨拾いを予想していましたが、なんと本人が献体登録をしておりました。心優しい人でしたから自らの身をもって世に奉仕したいと思ったのでしょうか、結局斎場には行きませんでした。メモリードの会場から見送る霊柩車の行く先は、群馬大学附属病院でありました。身体の帰る日は一年半後のことだそうです。遺族は、それを切ない思いで本人の意志として捺印をしたそうな。それも、人生いろいろだなあ、と思ひ至る今日この頃であります。 凡句一つ。

木枯らしやそろり三山を出でしかな

令和3年12月2日 老生記す。